

# 行政における クラウドサービスの活用イメージ

令和4年12月2日 デジタル化推進特別委員会

横浜市デジタル統括本部

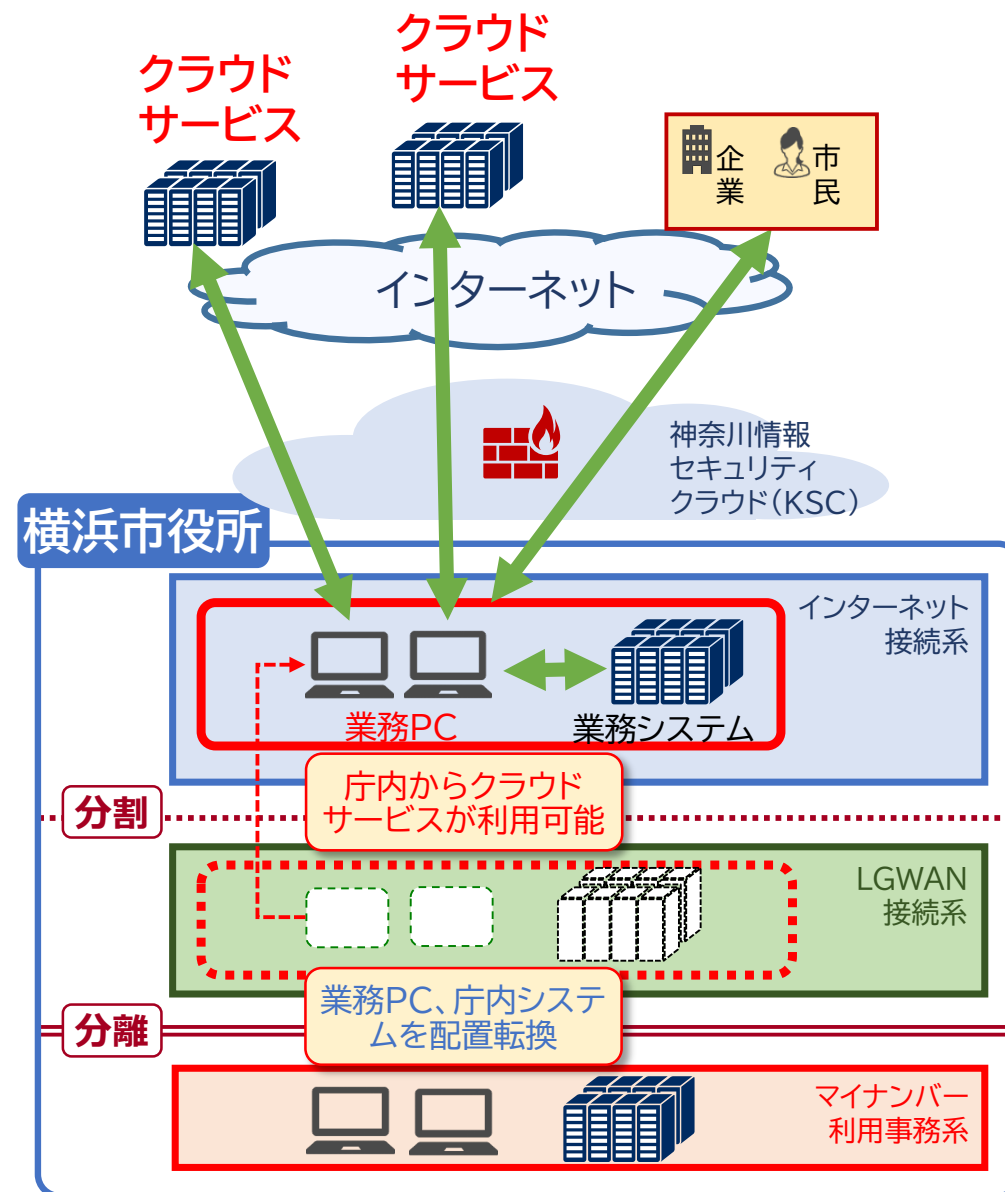
# 1 β´モデルへの移行

## 1.1 クラウドサービスが利用できる環境への移行

- 令和4年12月に、インターネット接続系にパソコン・システムを配置転換し、インターネットにあるさまざまなクラウドサービスが利用できる環境(β´モデル)に移行します。
- 住民情報を扱うマイナンバー利用事務系の業務については、引き続きインターネットから分離されたネットワークで取り扱います。

※β´モデル

令和2年12月に改訂された「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン(総務省)」に示された、「業務の効率性・利便性の向上を目的として、インターネット接続系に主たる業務端末と重要な情報資産を配置する」ネットワークモデル。

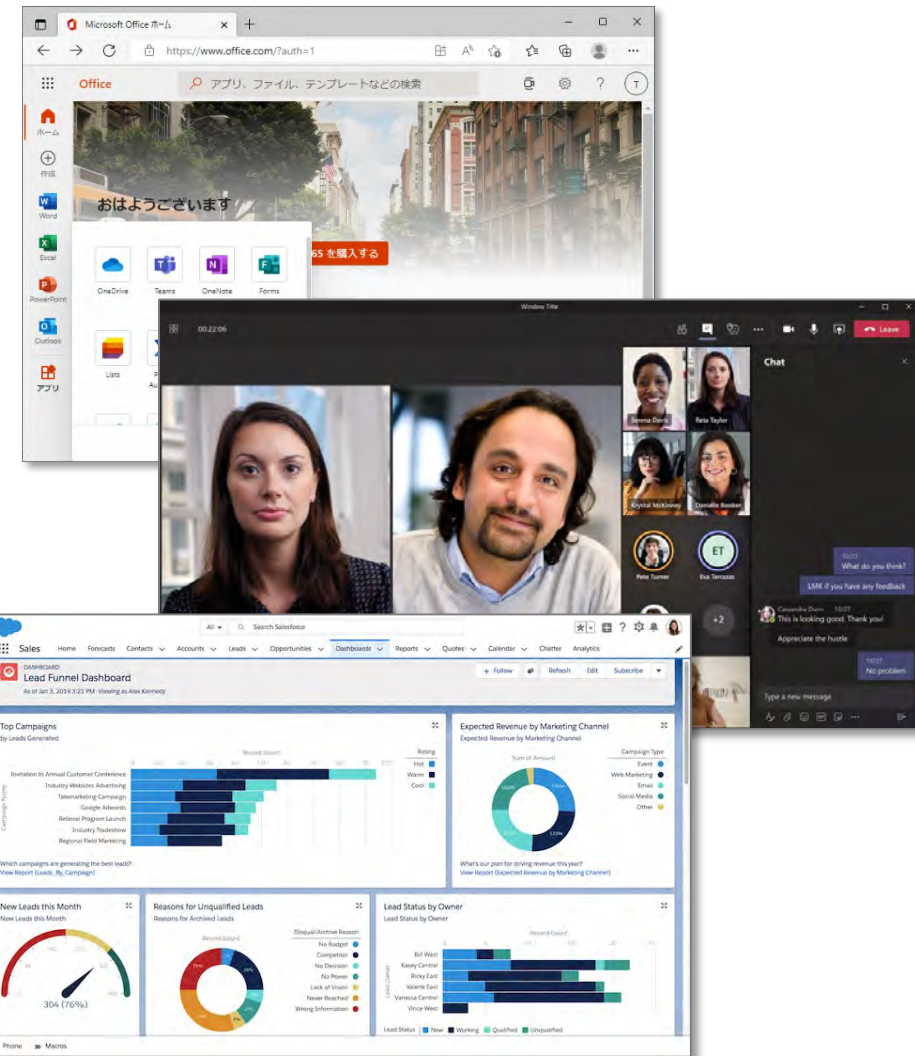


## 2 さまざまなクラウドサービス

### 2.1 さまざまなクラウドサービス

仕事に役立つ、さまざまなクラウドサービスが提供されており、**市役所の業務効率化に活用していきます。**

- **コミュニケーションツール** …… Teams、Slack
- **オフィスツール**  
メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ファイル共有  
………… Microsoft365
- **Web会議、ビデオ会議** …… Zoom、Teams
- **スケジューラー** …… サイボウズ、desknet's
- **RPA** …… Automation Anywhere
- **ノーコード・ローコードプラットフォーム**  
システムを簡単に構築 …… Salesforce、kintone
- **ワークフロー**  
手順に従い業務を自動化 …… Servicenow など

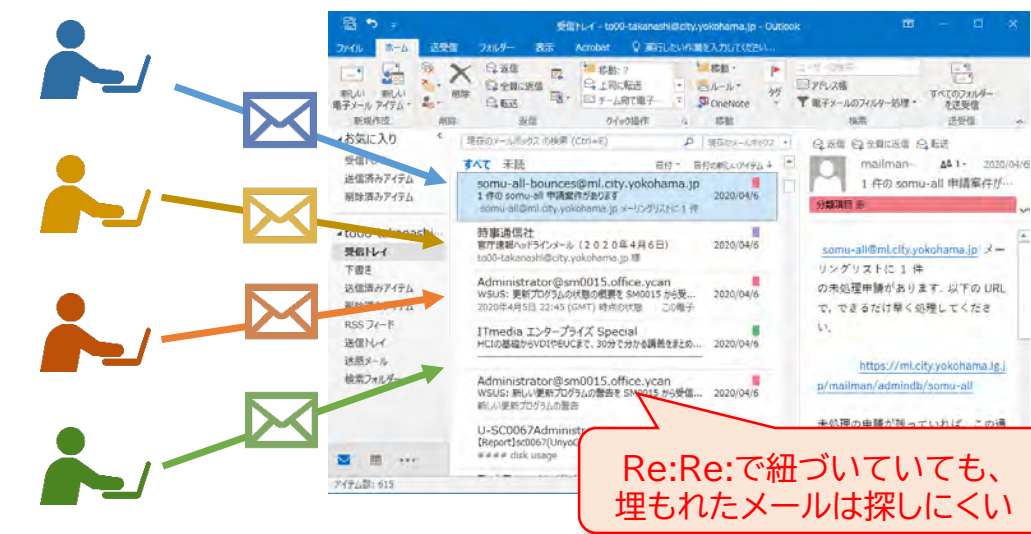


# 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

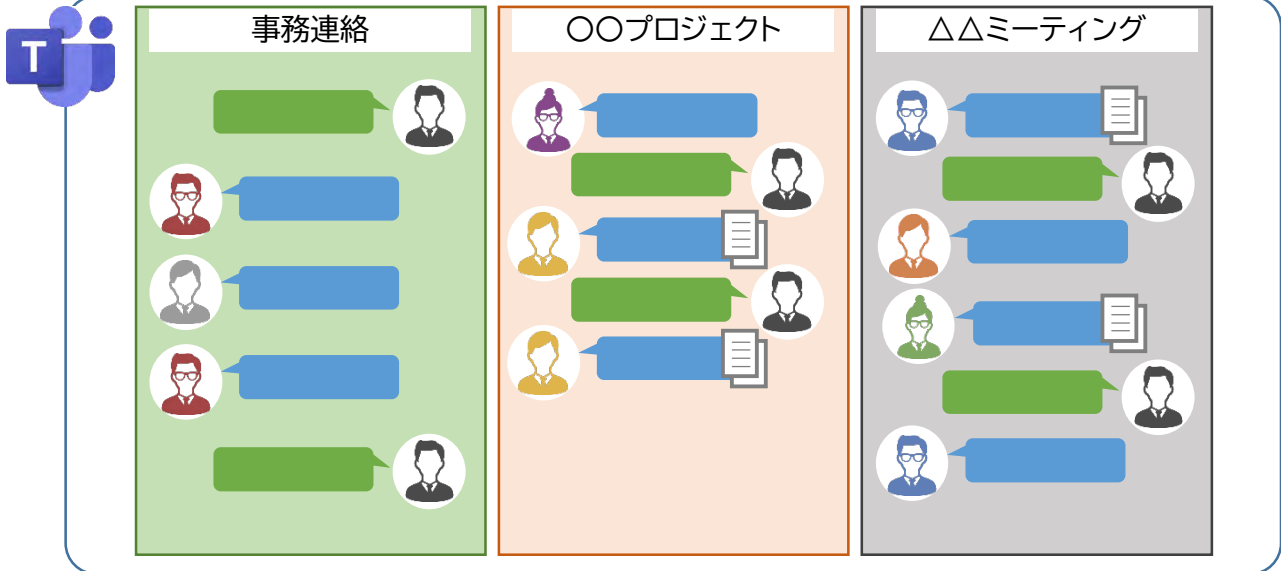
## 3.1 コミュニケーションツール

- チャットを使ったコミュニケーション
- Teamsビデオデモ(国土交通省の災害対策での利用事例のビデオ)

⇒メールの海に埋もれていくメール  
⇒あのメールはどこ?いつ?  
⇒最新情報はどれ?



⇒「その話題はそこ」を見に行けばわかる:話題に応じた部屋  
⇒「そのデータはそこ」を見に行けばある:部屋に紐づくファイル管理  
⇒情報の可視化で進捗管理:オープンコミュニケーション



## 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

### 3.1 コミュニケーションツール

#### ■ コミュニケーションツール(チャット)活用のメリット

##### (日常)

- 短いメッセージでメールより早く書き、読むことができる
- 簡単にグループを指定して必要な関係者に素早く情報共有できる
- スマートフォンに届くので素早く確認、判断、対応ができる
- 必要に応じて、通話やビデオ会議にも切り替えて会話できる

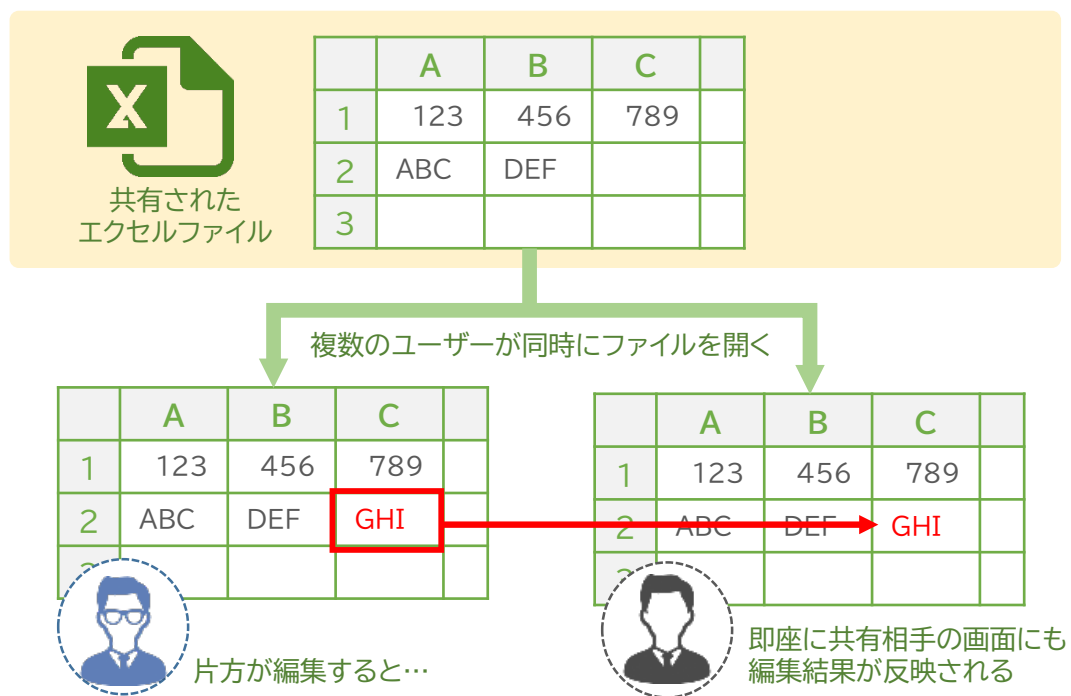
##### (災害時)

- 写真、ビデオ通話で現場から直接、報告、確認できる
- メッセージを時系列で追って、すぐに経緯を知ることができる
- 情報は関係者に一斉に共有され、どこに居ても確認・指示できる

# 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

## 3.2 クラウドを使ったオフィスツール

- クラウドを通じた資料共有・リアルタイムでの共同編集
- Microsoft 365 ビデオデモ



## 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

### 3.2 クラウドを使ったオフィスツール

- クラウドを使ったオフィスツール活用のメリット
  - コミュニケーションツール(チャット等)を併用して、離れた場所にいる職員同士でも相談しながらリアルタイムで資料作成ができる。
  - 同じファイルでも、前の人作業終了を待たずに、自分の担当部分の編集作業ができ、待ち時間を無くして資料完成を早くできる。
  - 場所や端末を選ばず、資料の作成、確認、編集ができるようになる。

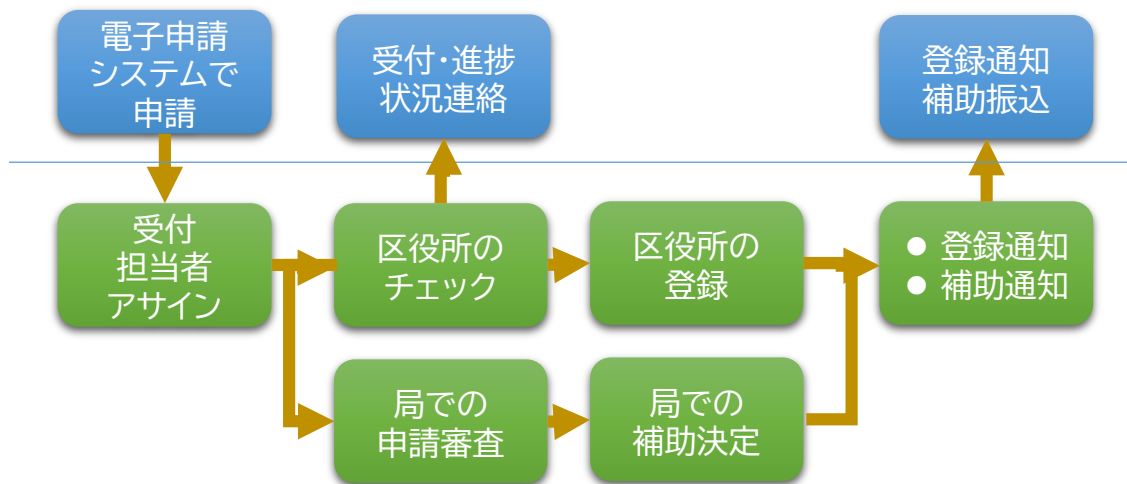
# 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

## 3.3 デジタルワークフロー・ローコードプラットフォーム

- クラウドでの定型業務の自動化、システム開発の簡易化・迅速化
- Servicenow ビデオデモ

### デジタルワークフローによる業務処理

一度の申請で同時に手続処理

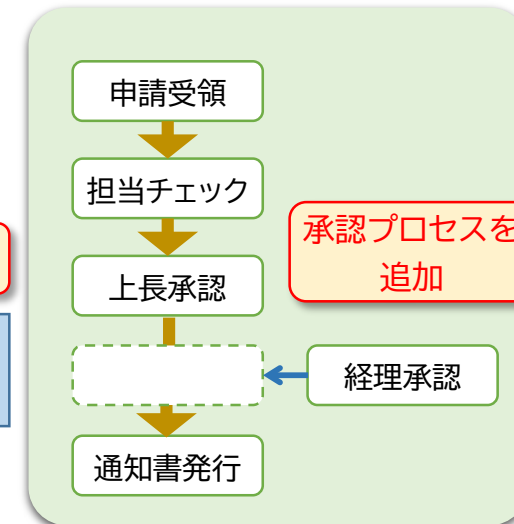


### ノーコード・ローコードによる開発

入力画面を簡単に編集

A screenshot of a form editor interface. It shows a form with fields for '氏名' (Name), '性別' (Gender) with radio buttons for '男性' (Male) and '女性' (Female), '住所' (Address), '入所希望日' (Desired move-in date), and '希望施設' (Desired facility). A red box highlights the '項目を追加' (Add item) button, and a blue box highlights the '入所希望日' field.

業務フローを簡単に変更





## 3 行政におけるクラウドサービスの活用について

### 3.3 デジタルワークフロー・ローコードプラットフォーム

#### ■ デジタルワークフロー・ローコードプラットフォームのメリット

- 複数のシステムをまたがるルーティンワークを自動化できる。
- 書類の処理状況が見える化され、職員の分担、引継ぎがしやすくなる。
- 必要なシステムを短期に構築できる。
- 作業の変更にともなう、システムの変更や修正が素早く簡単にできる。

など

# 4 今後の展望

## 4.1 クラウドサービスの活用に向けて

### ■ 目指す方向性

#### ■ 市民サービスの向上

- 時間の短縮
- 利便性の向上

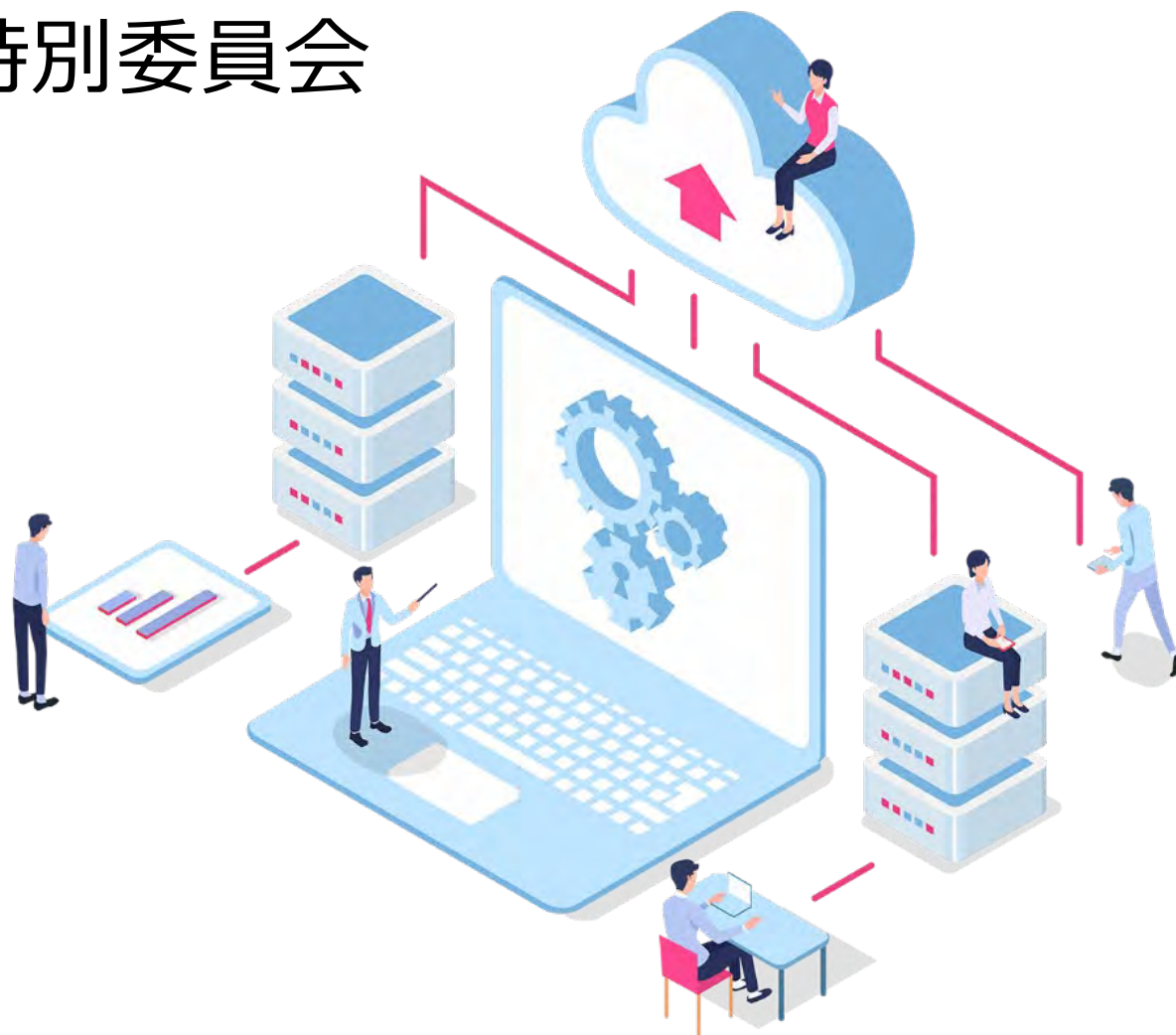
#### ■ 職員業務の効率化

- 場所を選ばない働き方
- 情報・知識の共有、分担、協業
- 自動化

### ■ 庁内の利用環境の整備

- 区役所も含めたペーパーレス化
- 庁内ネットワークの再整備、無線LANの整備
- セキュリティ対策・ルールの設定

# デジタル化推進特別委員会 報告書 構成案



令和4年12月2日  
横浜市会デジタル化推進特別委員会

# 報告書の構成案

## 1 付議案件

行政のデジタル化の推進による、市民サービスの向上及び業務の効率化に関すること。

## 2 今年度の調査・研究テーマ

「行政におけるクラウドサービスなどを活用した新しい働き方について」

### 調査・研究テーマの選定理由

令和4年度中に本市の庁内ネットワークがβ´モデルへ移行することにより、日常業務におけるクラウドサービス(オンライン会議含む)が、より利用しやすい環境となる。

これに伴い、既に民間企業などが実現している、クラウドサービスを活用した場所を選ばない効率的な働き方について、行政と民間が取り扱う情報の違いや業務の特性を考慮しつつ、本市でもどのように実現していくべきか、検討すべき時期に来ている。

また、クラウドサービスをはじめとしたICTの活用は、効率的な新しい働き方を実現するだけでなく、非常時における行政の業務継続性を確保することにも有用である。

市民の生命と財産を守るため、危機管理の視点からも、業務継続性を確保するために必要なICTは積極的に活用し、感染症、震災、風水害等、次の危機に備える必要があると思われる。

以上を踏まえ、今年度は、本市が必要な情報管理を図りながら、業務の効率化と業務継続性を確保することにより市民サービスの向上につなげるため、「クラウドサービスなどを活用した新しい働き方」について調査・研究を進めていく。

# 3 年間スケジュール



## 4 活動内容・意見等

### 第1回(6/8)

令和4年度委員会運営方法について

(主な意見)

...

### 第2回(9/22)

当局説明

「行政におけるクラウドサービスの利用について」

...

(主な意見)

...

### 第3回(12/2)

当局説明

「行政におけるクラウドサービス活用イメージ」

...

(主な意見)

...

### 第4回

(主な意見)

...

## 5 まとめ

(委員意見等を踏まえ、本委員会のまとめを記載)